

この事例作成のご案内は令和元年度の要綱です。令和2年度においては開催要項が決定次第ご案内いたします。「事例作成」についての変更等も含め、必ずご確認ください。

## (別添1)

# 平成31年度主任介護支援専門員更新研修 「事例の作成」について

## 1. 提出方法・提出期日

受講決定通知の際の添付「(別紙3) 提出書類等について」を確認し、期日までにご提出ください。

## 2. 提出する事例について

### (1) 事例の選定

1	<p>研修科目「主任介護支援専門員としての実践の振り返りと指導及び支援の実践(7科目)」では、各自が他の介護支援専門員に対して指導した事例を持ち寄り、研修を行います。</p>														
2	<p>他の介護支援専門員への指導・支援事例には、以下のような場面の事例を含めます。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>同事業所内の介護支援専門員への指導・支援</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>地域の介護支援専門員への指導・支援</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>地域ケア会議における事例への助言</td> </tr> </table> <p>※平成31年度から、受講者全員が指導・支援事例の提出を必須としております。          ※「一人ケアマネ事業所」等やむを得ない事情により指導・支援対象者がいない場合においても、地域の介護支援専門員による協力のもと、指導・支援の機会を設定してください。          ※介護支援専門員実務研修における実習、主任介護支援専門員フォローアップ研修における実習など、研修で設定された機会での指導・支援事例は対象外となります。</p>	1	同事業所内の介護支援専門員への指導・支援	2	地域の介護支援専門員への指導・支援	3	地域ケア会議における事例への助言								
1	同事業所内の介護支援専門員への指導・支援														
2	地域の介護支援専門員への指導・支援														
3	地域ケア会議における事例への助言														
3	<p><b>他の介護支援専門員に対して、以下A～Gの7つのテーマの視点で指導・支援した事例</b>についてまとめてください。(介護予防事例、施設事例もしくは終了事例でも構いません。)          1つの事例に、テーマが複合的に含まれていても結構です。1つの事例に複数のテーマを含む場合、それぞれのテーマに沿った指導・助言を行った内容であることを確認してください。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td>リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>看取り等における看護サービスの活用に関する事例</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C</td> <td>認知症に関する事例</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">D</td> <td>入退院時等における医療との連携に関する事例</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">E</td> <td>家族への支援の視点が必要な事例</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">F</td> <td>社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">G</td> <td>状態に応じた多様なサービス(地域密着型サービス、施設サービス等)の活用に関する事例</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">※テーマの選択については、「4. 参考」をご確認ください。</p>	A	リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例	B	看取り等における看護サービスの活用に関する事例	C	認知症に関する事例	D	入退院時等における医療との連携に関する事例	E	家族への支援の視点が必要な事例	F	社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例	G	状態に応じた多様なサービス(地域密着型サービス、施設サービス等)の活用に関する事例
A	リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例														
B	看取り等における看護サービスの活用に関する事例														
C	認知症に関する事例														
D	入退院時等における医療との連携に関する事例														
E	家族への支援の視点が必要な事例														
F	社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例														
G	状態に応じた多様なサービス(地域密着型サービス、施設サービス等)の活用に関する事例														
4	<p><b>【注意事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該利用者・事業所(施設)の許可を得て提出してください。</li> <li>・提出事例の作成にあたっては、対象とした要介護者等のプライバシー保護に十分配慮し、個人情報にあたる部分(氏名・住所・電話番号・生年月日・サービス事業所名等)は必ず消すようにしてください。</li> <li>・提出いただいた事例を確認し、「事例の選定」の条件に満たないと思われるものについては、実施主体の沖縄県に相談いたします。</li> <li>・<u>事例の提出がない場合、研修の受講はできません。</u></li> </ul>														

## (2) 提出する事例の様式・作成方法

- 手順1 表の I～IVの順に必要な書類を揃える。
- 手順2 揃えた書類の用紙下部中央に通し番号（ページ番号）をふる。
- 手順3 I～IIIの順にまとめて左上1ヶ所で留める。

⇒ **ここまでで1部完成です。**

順番	様式名	書き方・注意事項等
I	(別添2) 事例概要説明用シート	・指定様式（ワード）となります。 ・すべての内容を記入してください。
II	基本情報	・様式に指定はありません（自由様式） ・担当介護支援専門員が記載したものを添付してください。 ・指導時点の情報を添付してください。
III	課題分析（アセスメント概要）	<b>注意</b> ・マスキングに注意してください。 ・個人名・事業所名・住所・電話番号等は必ず消してください。

## 3. マスキングについて

### マスキングの基本

#### ◎ 利用者個人が特定されないこと

個人情報とは

- ・利用者・家族  
氏名、住所、電話番号、生年月日 など
  - ・主治医、サービス事業者  
名称、氏名、所在地、電話番号 など
- ※指導・支援事例の場合、事例提供者（担当介護支援専門員）の氏名、事業所名もマスキングの対象です。

#### ◎ 検討資料になること

消しただけ、または消してしまうと事例の理解が進まなくなるものに留意

- ・性別、年齢、続柄、認定区分
  - ・関係機関、関係者、出身地については、アルファベットで表す。
- ※ イニシャルではなく、A（本人）から順次付ける

### マスキング（個人情報消し込み）のルール

- (1) 個人情報に関する部分は修正液（修正テープ）で消した上でコピーをしてください。  
※マジックや個人情報を消すためのスタンプでは、コピーをしたときに文字が浮き上がることがあります。出来るだけ修正液（修正テープ）を使用してください。
- (2) マスキング後の表記方法
  - ・利用者氏名 ⇒ 利用者本人の氏名は「Aさん」に統一してください。
  - ・生年月日、住所、連絡先 ⇒ 全て消してください。（年齢は記載、）
  - ・利用者家族、親族、サービス提供者等の氏名や連絡先
  - ・事例提供者（担当介護支援専門員）の勤務先名、所属する他の職員の名前も消してください。  
⇒ 利用者以外の名前は「妻」「兄」などの続柄で表してください。

#### ≪消し忘れの多い項目≫

- ・基本情報 ⇒ 利用者の出身地や地名、利用者家族の氏名・電話番号等（**続柄は記載**）
  - ・課題分析（アセスメント） ⇒ サービス提供者等の氏名・電話番号
- ※1枚目は全て消していても、**2枚目以降消し忘れて**いるということが多く見受けられます。

## 4. 参考

・提出する事例のテーマの選択について、下記の表のキーワード例を参考にしてください。

### 《参考選択表》

項目	テーマ	キーワード例
A	リハビリテーション及び福祉用具に関する事例	筋力低下改善・日常運動の強化・リハビリテーション実施・住宅改修・福祉用具利用・外出支援・高齢者の外出先の開発・外出時の休息やトイレについて・機能強化ロボット使用 等
B	看取り等における看護サービスの活用に関する事例	痛みの改善の取組・生活機能低下における対応・死の受容に関する事・緩和療法・葬儀に関する相談対応・遺品に関する相談対応・生きがいの実現・看護サービス利用について 等
C	認知症に関する事例	初期診断に関する対応・地域ネットワーク構築・認知症の理解・環境変化における対応・行動障がい取組・認知症治療に関する事・精神疾患における医学的・心理的な状況等
D	入退院時における医療との連携に関する事例	医療チームへの伝達・介護チームへの伝達・説明責任・難病の取組・医療の活用・入院における介護負担に関する事・入退所におけるコンプライアンスに関する事・高齢者に多い入院を伴う疾患・感染症 等
E	家族への支援の視点が必要な事例	家族に疾患がある場合の対応・利用者と家族の受け止め方が違う場合の対応・家族間の関係性を対応した 等
F	社会資源活用に向けた関係機関との連携に関する事例	地域支援・社会資源と特徴と対応・社会資源との連携・社会資源介入と対応・地域特性と社会資源の関係・生活保護制度・成年後見制度利用・虐待事例 等
G	状態に応じた多様なサービス(地域密着サービスや施設サービス等)の活用に関する事例	住み替えの対応・生活機能促進、利用者の主体的な選択に関する対応・説明と同意に関する事・施設サービスの対応・地域密着サービス対応・定期巡回・随時対応型訪問介護看護・複合型サービス・小規模多機能居宅介護活用 等

### 《例》 沖縄花子さんの指導事例の場合

(指導のきっかけ)

A L S 担当が初めて。支援していたが、機能低下が目立ってきた。今後の支援のポイントなど確認したいとの相談。今回、指導を受けて、介護支援専門員は担当者会議に臨んでいる。

(経過)

平成25年2月 A L S 確定診断  
 平成26年3月 介護支援専門員が担当。  
 新規認定申請を行った(結果 平成26年3月1日から平成27年2月28日)  
 平成26年6月1日 ケアプラン再作成(サービス導入から3ヶ月後)  
 平成26年9月2日 再アセスメント(評価表にてケアプランを検証)  
 平成26年9月3日 介護支援専門員へ指導支援がおこなわれた。  
 平成26年9月3日 課題整理総括表をもちいて指導支援  
 平成26年9月5日 指導後の暫定ケアプラン作成  
 平成26年9月10日 サービス担当者会議開催  
 平成26年12月15日 評価表で検証

(指導まとめ)

- ①今回、進行する病気(A L S)についての支援に関する相談をうけ、アドバイスをさせていただいた。
- ②A L S という病気の特徴も理解しながら、環境整備をおこなうことによって生活の質や行動範囲が広がることを学べたのではないかと。関わりによって本人の笑顔が増えたことがすばらしい。
- ③サービス担当者会議への同席はできなかったが、せっかく指導した事例であったので、参加の依頼をいただいてもよかった。

(選択したテーマ)

A	リハビリテーション及び福祉用具に関する事例
---	-----------------------